

エチプロール・シラフルオフエン粉剤 キラップジョーカー粉剤DL	取扱メーカー： バイエル 原体メーカー： バイエル、バイエル
成分： エチプロール〔フェニルピラゾール系〕……………0.25% シラフルオフエン……………0.40%	性状： 類白色粉末45 μ m以下、 浮遊性指数20以下 毒性： 普通物 消防法： ——

【品目特性】……………

- 2種類の殺虫成分の配合により各種のカメムシに高い殺虫効果を発揮できる。
- 斑点米カメムシに速効性があり、合わせて長い残効が期待できる。
- 水稻の中・後期害虫であるツマグロヨコバイ、ウンカ類、コブノメイガ、イナゴ類などにも優れた効果を発揮する。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】……………

- 水稻の主要害虫をまとめて防除できる。
- 〈カメムシ類対象に使用する場合〉
- アカヒゲホソミドリカスミカメ主体の場合、出穂の7～10日後及び1回目散布の7～10日後が散布適期である。
 - オオトゲシラホシ、シラホシカメムシなどが主体の場合、穂揃期及び1回目散布の7～10日後が散布適期である。
 - ウンカ類、ヨコバイに対しては、いずれのステージにも有効なので、カメムシ類の散布適期に合わせて散布した場合でも高い効果がある。

〈イナゴ類対象に使用する場合〉

- イナゴ類に対し、老齢幼虫・成虫にも優れた効果がある。
- 〈ウンカ類・ヨコバイとコブノメイガ同時防除で使用する場合〉
- コブノメイガの散布適期（発蛾最盛期の約1週間後）に合わせて散布する。
 - ウンカ類、ヨコバイに対しては、いずれのステージにも有効なので、コブノメイガの散布適期に合わせて散布した場合でも有効である。

【安全対策上の注意】……………

- 甲殻類に影響を及ぼすので、使用時並びに使用後も注意。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにする。
- 共通注意事項7、ミツバチに対する注意事項を参照。



【適用と使用法】……………

作物名	適用害虫名	10 a 当り 使用量	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用 方法	エチプロールを含む 農薬の総使用回数	シラフルオフエンを含む 農薬の総使用回数
稲	ウンカ類 カメムシ類 ツマグロヨコバイ コブノメイガ イネツトムシ イナゴ類	3～4kg	14日前まで	2回以内	散布	2回以内 (は種時(直播)又は移植 時までの処理 は1回以内)	2回以内